

発掘調査をのぞいてみよう

大野城市教育委員会

発掘調査が必要かどうかを調べるために、その場所の一部分を掘ってみます。このときに昔の人々が生活していた跡（遺構）が見つければ、発掘調査をすることになります。

発掘作業をのぞいて見ましょう。

はじめに機械で昔の地面まで掘り下げます。そのあと、昔の人々が生活していた跡（遺構）を掘ります。遺構は大きいものや小さいもの、浅いものや深いものなど、様々です。そのため

に、いろいろな道具を使います。ここでは、どんな遺構が見つかるのでしょうか？

発掘調査地をのぞいて見ると、丸いあながあいていませんか？このあなを遺構といいます。昔の人が家を建てるためや使えなくなった土器などを捨てるために掘ったあなで、長い年月が経つ間に柱などは腐り、捨てられた土器はそのままに、あなは埋まってしまいました。この時に埋まった土の色とまわりの土の色が違うので、どこを掘ればいいのか分かります。

大きな溝を掘っています。

溝（水を流すための掘り込み）の中から、たくさん土器が出てきました。底のほうから出てきているみたいです。そのために、掘るのが大変そうですね。掘り終わったら、溝の中は土器だらけです。



左の溝から見つかった土器の破片を、元の状態にしました。



技師

発掘調査地で仕事をしている人たちを紹介します。

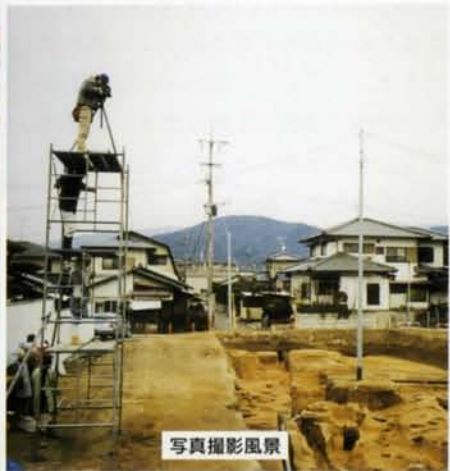
私は大学で考古学を勉強した発掘調査の専門家です。私の仕事は、どこをどのように掘れば、その遺跡のことが最も理解できるかを考えることです。発掘現場では私が指示をだして、作業員さん達が掘ります。

私は、掘り終わった遺構の図面をとる、高さを測る、写真を撮るといった作業をします。遺跡は調査が終わると壊されてしまい、私が描いた図面や写真しか残りません。この記録と見つかった土器など（遺物）から、その遺跡の年代や特徴を考えます。

地域の歴史が明らかになるような発見があると、わくわくします。



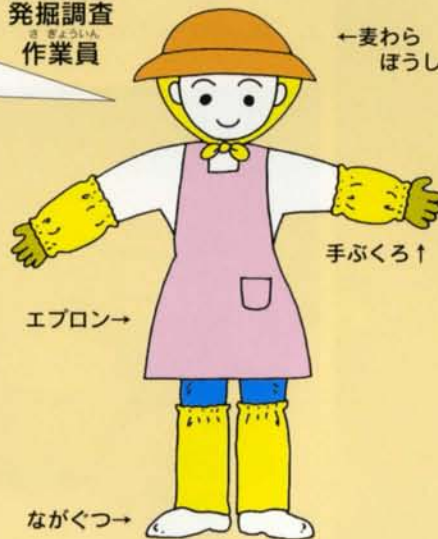
実測・レベリング風景



写真撮影風景

私たちが実際に遺構を掘ります。汚れてもいい格好で作業をします。道具は4点セット以外に、自分で工夫して使っています。
暑い夏の日も、寒い冬の日も外の仕事なので大変ですが、土器などが見つかった時はうれしいです。

発掘調査
作業員



←麦わらぼうし

手ぶくろ↑

エプロン→

ながぐつ→

4点セット

バケツ



(土をはこぶ)

いしよくゴテ



(土をほる)

まがり



(土をすくう)

ねじりガマ



(土を平らにする)